

■協議会エリアの概況

【位置】

JR名古屋駅前(広小路口)を中心に東西約1.0km、南北約1.5kmの楕円状の範囲

【地区面積】

約120ha

【人口、就業者数】

人口(住民) : 約3,420人、約2,250世帯

就業人口 : 約150,000人

【建物面積、用途】(H18年度調査データ)

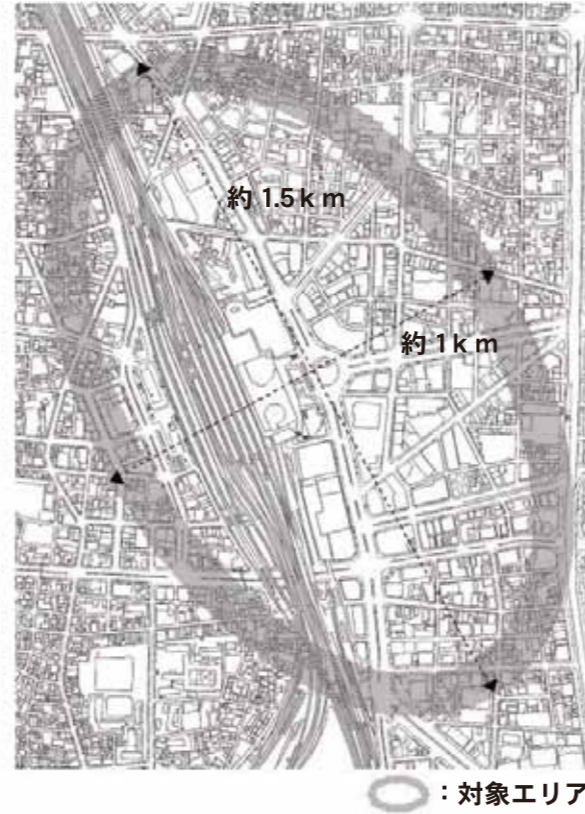
全建物数・面積 : 約1,700棟、約310万㎡

用途別面積	オフィス	約164万㎡(約53%)
	物販・飲食	約48万㎡(約15%)
	宿泊他	約43万㎡(約14%)
	住宅	約10万㎡(約6%)

【乗車人数】(H19年度実績)

約56.5万人/日

- ・JR名古屋駅 : 約19.1万人/日
- ・地下鉄東山線 : 約12.0万人/日
- ・地下鉄桜通線 : 約4.9万人/日
- ・名古屋鉄道 : 約14.0万人/日
- ・近畿日本鉄道 : 約6.5万人/日



○ : 対象エリア

■会員企業(五十音順)

- | | |
|--------------|--------------|
| (株)安保 | 名古屋交通開発機構(株) |
| (株)エスカ | ★名古屋鉄道(株) |
| NTT都市開発(株) | 名古屋ビルディング(株) |
| (株)OVA21 | 西日本電信電話(株) |
| ★大橋物産(株) | 日本GE(株) |
| 岡谷不動産(株) | 本州建設(株) |
| 近畿日本鉄道(株) | 毎日新聞社(株) |
| 錦成ビル(株) | 毎日ビルディング(株) |
| 近喜ビルディング(株) | 三井物産(株) |
| ★三交不動産(株) | ★三井不動産(株) |
| 積水ハウス(株) | 三菱倉庫(株) |
| 千福企業(株) | ★三菱地所(株) |
| ちとせビルディング(株) | 名三不動産(株) |
| (株)中部経済新聞社 | 名鉄協商(株) |
| 中部電力(株) | ★名鉄不動産(株) |
| 東京建物(株) | (株)名鉄百貨店 |
| 東邦ガス(株) | (株)名鉄レジャック |
| ★東和不動産(株) | 森定不動産(株) |
| トヨタ自動車(株) | (株)森精機製作所 |
| 豊田通商(株) | ★郵便局(株) |
| (株)ナゴヤキャッスル | 学校法人モード学園 |
| ★名古屋地下街(株) | ☆(株)ユニモール |

【オブザーバー】

- 東海旅客鉄道(株)
- 名古屋市

※ ☆: 幹事長、★: 幹事会社

名古屋駅地区街づくり協議会 会報 [創刊号]

■第3回定期総会

平成22年4月20日(火) / 午後1時30分～
ミッドランドスクエア5階・ミッドランドホール
(名古屋市中村区名駅4-7-1)

■定期総会次第

開会の辞

新規会員紹介

決議事項 /

- ・第1号議案 平成21年度活動報告
- ・第2号議案 平成21年度決算報告
- ・第3号議案 規約改定案
- ・第4号議案 平成22年度事業計画案および予算案
- ・第5号議案 街づくり宣言案および街の将来像2025案
- ・第6号議案 役員を選任

報告事項 / 総会後のシンポジウムについて

閉会の辞

■シンポジウム

テーマ: 「経営的な視点からのまちづくりのあり方」

- ・基調講演「持続的可能なまちづくりの戦略と展望」
宮城大学教授 風見正三氏
- ・事例発表①
「日本型街づくりの終焉とまちづくり会社の経営」
熊本城東マネジメント株式会社
代表取締役社長 木下斉氏
- ・事例発表②
「日本の、北海道の、札幌の、大通のまちづくり」
札幌大通まちづくり株式会社
取締役統括部長 服部彰治氏
- ・トークセッション
コーディネーター 風見正三氏
パネリスト 木下斉氏
パネリスト 服部彰治氏



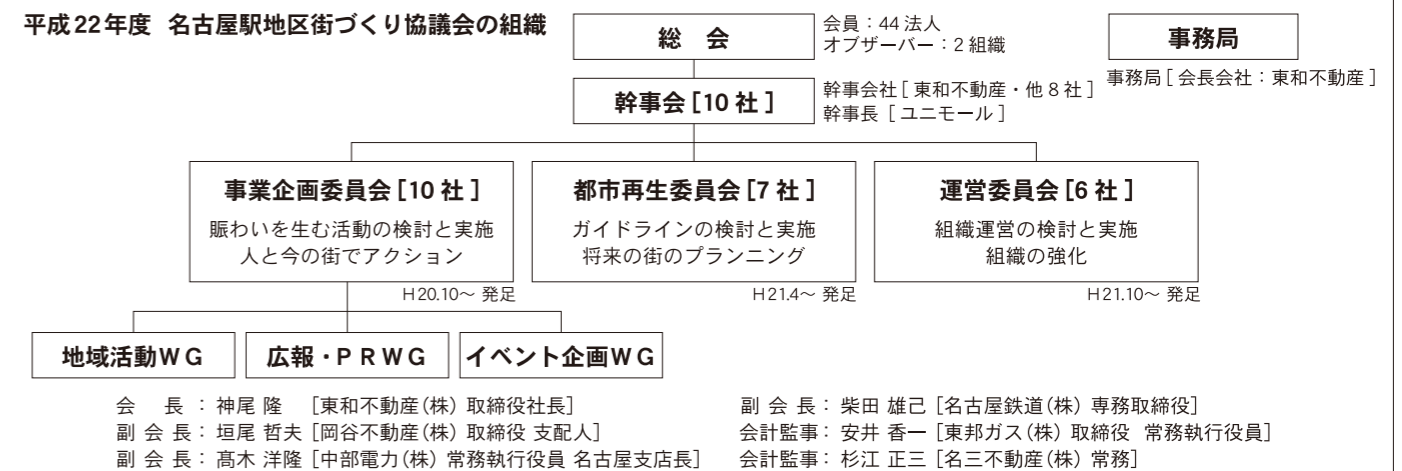
名古屋駅地区街づくり協議会 会長 神尾 隆

当協議会は、2008年3月に設立して以来2年が経過しました。その間、会員数は当初の29法人から44法人に増加し、今後、ますます拡大していくものと予想しています。一方、名古屋市をはじめ、各行政は当協議会の活動に対して力強いご支援をいただいております。名古屋全体の街づくりのモデルにとの期待を感じている次第です。これらは、会員の皆様の多大なるご協力の賜物であり、心より御礼を申し上げます。

さて、名古屋駅地区では今後10年以内に複数の大型プロジェクトを控えており、街がさらに変貌しようとしています。そのような中で、将来の名古屋駅地区のあるべき姿を話し合い、想いを一つにすることは非常に重要なことでもあります。そのためには、「安全・安心、快適、環境、交通」などさまざまな観点から緩やかだが具体的なガイドラインを創り上げる必要があります。そして、このような私どもの活動により、名古屋全体に街づくりの機運が高まる事を願っています。

また、今年は8月にあいちトリエンナーレ、10月にCOP10と大きな国際イベントが開催され、非常にたくさんの方々名古屋を訪れる事になります。そうした人々から、「もう一度訪れてみたい」「名古屋はずばらしい街だ」と思われるような「おもてなしのある街」を、地域一体となつてつくり上げていきたいと思ひます。

平成22年度 名古屋駅地区街づくり協議会の組織



幹事会をふりかえって



柴田 雄己 前幹事長

設立2年目となる平成21年度は、4月に都市再生委員会、10月に運営委員会を設置するなど、組織を充実させながら、活動に取り組みました。

各専門委員会での活動に加え、4月の定例総会、9月の臨時総会の後には、街づくりを専門とする学識者や、街づくり活動の先覚者の方を講師にお招きしてシンポジウムを開催するなど、エリアマネジメントをめぐる知識や経験の吸収にも、引き続き積極的に取り組みました。

幹事会は概ね毎月1回開催し、担当する会務の執行や、専門委員会間の連絡・調整を行うとともに、運営全般に関わる諸問題について、真剣に議論を行って参りました。

幹事各社の多大なご協力により、円滑に運営ができましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

昨年度は、当会への新規入会や外部からの清掃活動への参加、イベントの後援依頼、他地域からの視察・来訪もありました。打ち水などの行事はマスコ

ミにも取り上げられ、当協議会の地域内外の認知度や期待が高まってきていることを実感した1年間でもありました。

また、会員の一部の方からは、「会員各社間の情報交換や交流が気軽に行えるようになった」との声も聞いています。これは街づくりの取り組みには直接には関係ないことかもしれませんが、会員各社同士の関係が深まり連携強化されることは、将来的に当地区の街づくりがスムーズに行われるための土壌づくりとして、非常に重要なことであり、有り難いことだと思っています。

今後も当協議会の活動により、そうした名古屋駅地区の連帯感が醸成されるとともに、街づくりの取り組みが一層進展することを願い、ご報告とさせていただきます。

◎活動のひとこま



総会



基調講演



拡大幹事会



トークセッション

事務局長より一言

柴田様には、力強い推進力とユーモアで2年間幹事長を勤めていただき、ありがとうございました。平成22年度からは、副会長のお立場でもいろいろとご指導いただきたいと思っております。



分担することで、地区がよくなることによってもたらされる利益をそれぞれが享受できるのではないかと思います。期待していることは山ほどある。

- Q. 民間でこれだけのまちづくりを進めることについて、会社としてどのような位置づけで考えているか。メリットはあるのか。
- A. それぞれに、この社会情勢の中で、何もしないと15年先にはどうなってしまうかという不安がある。一方で床も増える。テナントを取り合うことなく満たすことができれば、みんなが潤う。街の魅力向上活動を持続させることも大切だ。BID や TIF という事業費の確保の手法も、今の日本でできないのであれば、15年先までできないままではなく、都市計画税や固定資産税を無駄にしないことも考えて、ある意志を持って行政と話していきたいと考えている。どれも単独の一社では不可能なことであり、その意義を感じていただいているのだと思う。
- Q. 緑率が低いという話があったが、活動をしていく中で、地区ごとに特徴を出していくような開発をしてく予定はあるのか。
- A. 統一感のある街並み形成のためには、形骸化している名古屋駅地区都市景観整備推進委員会（事務局：名古屋市）を、より活発にする必要がある。また当協議会でも、この地区はこういうものがあるというメニューを検討し、ランドデザインを描いてみたい。さらに、メニューに賛同し、実施した場合には恩恵を受けることができるというような、誘導型のガイドラインが整備できたらいいと考えている。
- Q. 都市計画審議会との関わりや条例改正のための調整なども必要になるのではないか。
- A. オブザーバーとしての名古屋市の意義と役割は大きい。特に、ハード整備に関わるものは大変な労力が必要だ。ではソフト面は簡単かということこれもそうではない。例えばエリアマネジメント広告を行うためには、広告物条例、都市景観形成基準、道路占用や使用等の許可基準などの規制を見直す必要がある。現状は、商店街の広告に対する規制であると考えられなくも無い。だとすると、公的な立場である街づくり協議会の位置付けを行政が認識した上で、条文を拡大解釈するか、条例等を改正することが必要になってくる。



- Q. 名古屋のまちの課題として、観光や旅行に行きたいと思うかというアンケートで、他の大都市に比べて、低い数字が出ているが、これをどう捉えて、どのようにしていこうと考えているか。
- A. 外国人観光客のゴールデン・ルートというものがああり、名古屋は飛ばされてしまう。名古屋単独で観光を推進するよりも、周辺観光施設の情報を出していくなど、地域と連携していくべきと考えている。
- Q. 2025年という話があったが、協議会としてのタイムスケジュールや着地点としてどのように想定しているのか。これから新しいビルがどんどん建つ計画となっているが、床が埋まっていくのかどうか。
- A. ある程度緩やかなコンセプトに基づいて互いに約束事を決めてやっていこうということを考えている。その延長上にリニア新幹線が開通したときには、街ががらっと変わっている。空室率についての懸念はあるが、これらの開発を契機として地区の活性化が図られるよう、またリニア新幹線開通や道州制も念頭に置きながら街づくりを考えていきたい。最終の姿をにらむと話がまとまらないので、15年先という、一つのわかりやすいところを考えて、目標を掲げている。



都市再生委員会の活動をふりかえって



木下 正治 前都市再生委員長

平成 21 年度の都市再生委員会の活動は、「ガイドライン骨子の策定」を目標に、まず、3 月から 6 月まで「コンセプト策定ワークショップ」を実施しました。合計 4 回のワークショップでは 113 名 (1 回当たり 30 名弱) に参加いただき、非常に有意義なものでありました。

7 月以降、委員会では、ワークショップで得られた結果やアイデアを分析し、街の強み弱み、危機感、街づくりの方向性など整理し、委員会での議論を重ねながら、8 月 20 日にコンセプト(案)として取り纏めました。

9 月以降は、都市ブランドとしての視点、テキストマイニングやアンケート調査の結果から得られた一般市民からの視点、今後の具体的な活動などを模索しながら議論を進めて参りました。

しかしながら、委員会メンバーの間で、キャッチフレーズやコンセプトという言葉の定義・イメージがバラバラで、見解に相違があったこと、また、

キャッチフレーズやコンセプトを読んだだけでは、実際の街づくり活動として具体的に何を実施していけばいいのか? ということが見えてこないという課題を認識し再検討しました。再検討の際には、他地区の事例を参考にしながら、キャッチフレーズ等の言葉の定義を改めて整理し、委員会で議論を深め、意見を集約し、「街づくり宣言」「街の将来像 2025」をまとめました。

「街づくり宣言」は街づくりに対し、将来にわたって変わらない思い・理念を示したものであり、「街の将来像 2025」は 2025 年の街のあるべき姿を示したものです。また、街づくり戦略例は、具体的に何を実施していくのかという例を示したものです。今後、具体的な内容についてより詳細に検討していただきたいと思ひます。

◎活動のひとこま



ワークショップ



「街づくり宣言」
「街の将来像 2025(案)」
説明会



都市再生委員会(アンケート結果報告会)

事務局長より一言

木下様には副会長のお立場に加え、都市再生会委員長としても、ご活躍いただきました。柔和なお人柄と機転の利いた会議運営で委員会を引張っていただきまして、本当にありがとうございました。

運営委員会の活動をふりかえって



鈴木 晴美 運営委員長

昨年 10 月より活動を開始した運営委員会では、前半 3 ヶ月は組織の強化を始めとする当委員会の具体的なミッションとスケジュールを討議し、後半 3 ヶ月は地域内企業の団体加入状況の調査と会員勧誘、また、組織構成員のあるべき姿、会員の定義をして討議し、規約改正案を発議し、総会で承認されました。次にその趣旨を説明します。

◎会員資格について

現規約では「会員」の資格を「地権者企業」としています。一方、現状は地権者のほかにも建物管理者・一棟借りの賃借者・インフラ事業者、学校法人など、設立総会および幹事会の承認により、様々な組織が会員として参加しています。これらを包含した形で定義つけるために、「会員資格」を「地権者等の法人」としました。

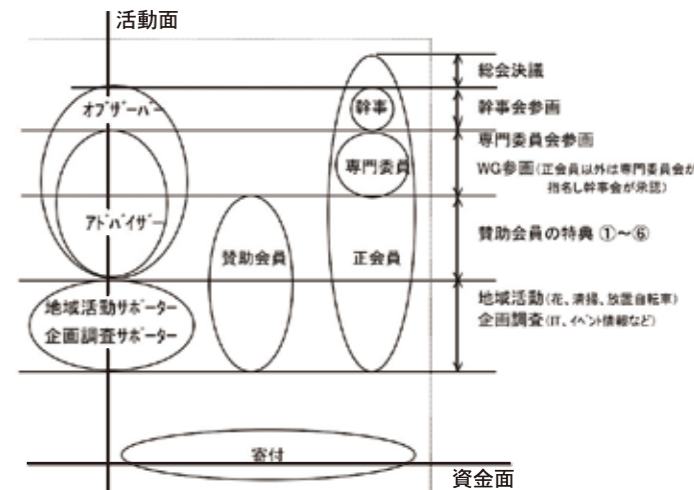
◎会員種別について

当会の活動が注目されつつある中、地区内外の企業様などからの参加希望が多数見受けられるようになってきております。こうした要望に対応するため、協議会としての統一的な見解・ルールを整理すると共に、会員の種別を明確にしました。まず、上記の要望に対応できるように、新たに「賛助会員」という会員枠を設けることとしました。賛助会員は、「地権者等の法人」に属さない法人からの入会要望に対する会員枠となります。なお協議会の議決権を有するのは「正会員」のみとし、「賛助会員」の会費は「正会員」の半額 5 万円としています。

今後は自治会・商店街・行政の出先機関等との定期的な情報交換会を開催すべく検討してまいります。



■活動面と資金面からみた参加形態の位置付け



■賛助会員の特典

- ①会員対象セミナーへの招待
- ②シンポジウムへの優先案内
- ③交流会への参加
- ④総会の傍聴
- ⑤協議会ホームページへの名簿記載
- ⑥イベントの案内

※2010.6.17 幹事会で決定

事務局長より一言

第 3 回定期総会で賛助会員の特典については、運営委員会の発議で幹事会にて定めることとしておりました。6 月 17 日の幹事会で上記の 6 点が特典として決定されましたので、お知らせします。

横浜市議会行政視察の概要

1月24日15:00~16:30、横浜市議会まちづくり調整・都市整備・道路委員会横溝委員長(民主党)、清水副委員長(自由民主党)、河治副委員長(日本共産党)をはじめ、6名の委員の皆様と横浜市役所まちづくり調整局の高田総務課長、都市整備局小山内総務課長、道路局榛澤総務課長、市会事務局庶務課宮田庶務係長、議事課書記の鈴木様の合計14名の方がご視察にいらっしゃいました。以下に、その様子をご紹介します。



名古屋駅地区の街づくりについて

(1)協議会の概要説明

・対象区域の概況

当地区は、名古屋城下から外れた西側の低地に位置し、明治19年に鉄道が通って以来大きな発展を遂げている。これまでの10年とこれからの10年で、地区内で大規模開発が相次ぎ、床の大幅な増加も見込まれている。

・協議会の設立経緯及び組織体制

1982年、商業振興、地域貢献を目的に地区内の企業が参加して名古屋駅地区振興会(会員数25社)がつけられる。1984年、駅地区振興会と商店街が協力して、ナゴヤエキトピアまつり実行委員会を立ち上げ、以来毎年当まつりを実施している。名古屋市が名古屋都心部将来構想をつくるということで、2002年に名古屋駅周辺を考える会がつけられて、名古屋駅周辺がどうあるべきかの検討を行っている。当会は2年間で終了しているが、その後、名古屋駅地区振興会の内部組織として、名古屋駅地区街づくり構想委員会が設置され、10社で活動が進められたが、振興会の趣旨にそぐわないとの理由により、2年で解散する。その後、有志にて街づくり組織のあり方を検討し、平成20年3月、地権者企業を中心に当協議会を設立した。現在、幹事会の下部組織として事業企画委員会、都市再生委員会、運営委員会を設置している。

(その他、協議会の主な活動についてご説明いたしました)

(2)質疑応答の概要

- Q. 42法人の中で、名古屋を本拠地としている企業はどのくらいあるか。
A. 7割くらい。
- Q. 横浜市は行政がコーディネート役で進めている事業が多いが、民間が事務局となることについてどう感じているか。
A. 民間の声を行政に届けるにも、一社だけでは難しく、協議会としてお願いしていく。そのための事務局は民間が主体でよいと思っている。ただし、公共性の高い地域での街づくりでは、行政としての役割も忘れられないでほしいと思っている。
- Q. 地域の整備は、行政と一体的に計画をつくらないと難しい面もあると思うが、行政の巻き込み方についてはどのように考えているか。
A. 協働が大切だと考える。民間で組成する協議会が地区の意向としてあるべき姿を描き、行政がコントロールすべこととの接点を見だしていくことが大事である。今後は、地域懇談会を設置し、より連携を密にしていきたいと考えている。繰り返しになるが、民間の意見がばらばらだと、行政との間で接点が見いだせない。よって、まずは民間の側で合意形成を図ることが大切であると考えている。
- Q. 横浜市でもエキサイトよこはま22において、行政と民間がタイアップして進めようとしているが、こちらでは民間が主体。組織図でも行政が枠外となっている。
A. 官は一つの意志を持っており、民も一つの意志を持って、その中に一つの接点を見いだすような、おたがいが協力し合える近い目標像を描くことが必要。民が一つになるのがこの協議会であり、官を排除するのではない。官民が役割とリスクを互いに明確に

事業企画委員会の活動をふりかえって



森田 王作 事業企画委員長

事業企画委員会では、4月に地域活動ワーキング、広報・PRワーキング、イベントワーキングという3つのワーキンググループを組成し、それぞれ活動を進めてまいりました。

○地域活動ワーキング

昨年3月からはじめた毎月第二水曜日の清掃活動は、毎回約60名の人に参加し、活動が定着して参りました。現在では、清掃活動の風景を見た会員以外の企業様より「参加したい」という要望も多々聞こえてくるようになりました。これらの声が大きくなり、名古屋全体に清掃活動が広がり、街全体がキレイになる契機になればと思います。12月からは名古屋市様と自転車等の適正利用に関するアダプトプログラム(里親制度)を締結し、違法駐輪対策の活動も開始しました。また、ユニモール様、日本ハンギングバスケット協会様のご協力のもと、花植えも実施しました。

○広報・PRワーキング

本年度開催される国際的なイベントに伴い、各国か

ら名古屋を訪れる人を対象としたMAPの作成を検討してまいりました。協議会の少ない予算の中で、どうすれば安価で作成でき、効果的に配布できるかということを探し、(株)クーゲート様のご協力のもと、検討中です。作成中のMAPについてはCOP10支援実行委員会が参加者に配布する「コンgresパック」に入れてもらう予定です。

○イベント企画ワーキング

8月4日に名古屋駅地区打ち水大作戦を実施しました。打ち水には100名以上の方に参加していただき、テレビでも放映されるなど非常に有意義なものでした。また、11月6日には「開府プレウォーキング」と題し、名駅から栄まで史跡や文学などをテーマに街歩きを実施しました。

その他、7月には「COP10について」「都市ブランドについて」、1月には「開府400年を迎えた名古屋城」「あいちトリエンナーレ2010について」と題したセミナーを開催しました。

◎活動のひとこま



清掃活動



違法駐輪対策



8月4日 打ち水



3月29日 花のプレ植樹



7月3日 街歩き



1月28日 新年会

事務局より一言

森田様には、行政をはじめ様々なところへの橋渡しや同行などをお願いしました。また、どれもみな初めてばかりの企画や活動でしたが、和気あいあいとした雰囲気の中でまとめていただきました。本当にありがとうございました。